



No.41 2022.6.23^{発行}

群馬県立高崎高等学校 翠巒体育会報
<https://suirantaiikukai.com/>



「人間万事塞翁が馬」という言葉を胸に、常に前を向きながら日々野球に取組む。

■はじめに

高高を卒業して早くも11年の月日が流れました。今回の寄稿にあたり、今までの人生を振り返る良い機会となった。このような場をいただいたことに感謝を申し上げたい。改めて、今の自分の基盤は高高で築かれたことを実感している。これまでの経験や感じたことを記述させていただくので、拙い文章ではあるがお付き合いください幸甚である。

■高高時代(2008~10)

硬式野球部と勉学の両立にあたり、大きく立ちはだかった壁は「時間との戦い」だった。日々課されていく膨大な量の課題や試験対策など、効率良く部活との両輪を回すためにあらゆる手段を考えた。朝早く登校し始業前の時間を活用し、部活後には部室で課題を消化した。今振り返ると、効率良く合理的に時間を作り、使うための訓練だった。

部活で手に入れた一番の財産は、チームメイトとして切磋琢磨し、一生付き合いたいと思える最高の仲間との出会いである。勉学と同様に必死に食らいつく日々だったが、その中でも、うまくいかないことを楽しめる感性を磨けたのが大きな成長だった。

甲子園観戦はじめ他競技の大舞台を肌で感じる機会もあり、自分の世界が広がっていくことの楽しさに気づけた3年間でもあった。こうして現在も野球に携わる仕事ができているのも、高高時代に野球人として、人として基礎を積み上げることが出来たからに他ならない。

■大学時代(2011~14)

教員を志し、埼玉大学教育学部理科専修に進学。所属先の研究室ではウニの研究に取り組んだ。一見、野球とは無関係に思えるが、条件を変えながら実験を繰り返し行い結果に繋げるサイクルが、技術向上のそれに近いと気付いた。野球でも研究でも失敗から何を学ぶかということを意識した4年間だった。野球部は指導者不在で学生のみで活動していたが、やるからにはプロ野球(NPB)を目指してとことん食らいついた。チームや個人に足りないものを常に議論しながら取り組めたことが、より大きな成長に繋がった。

NPBへ行ける可能性は限りなくゼロに近かったが、ユニフォームを着続けていた限り可能性はゼロではない、と思っていた。高高時代に読んだ『不動心』(松井秀喜著・新潮新書)で紹介のある「人間万事塞翁が馬」という言葉を胸に、何事もプラスに捉えることができた。

■群馬ダイヤモンドペガサス 選手時代(2015~17)

自分自身の可能性へのチャレンジのため、大学卒業後は独立リーグの群馬ダイヤモンドペガサスに入団した。入団当初は自身のレベルの低さを痛感し、出鼻をくじかれた。心技体全てにおいて力不足を感じる日々。特に精神力は、これまで大きな舞台を経験してこなかったことをコンプレックスに感じる時期もあった。

NPBへ行くために自分という選手を客観視し、伸ばすべき長所と克服すべき短

所を意識しながら自分と向き合う日々だった。ドラフト指名は年齢との勝負もあるため、階段ではなくエレベーターの速度で成長する必要があった。努力のベクトルがズレないようスピード感も意識したが、ペガサスでの3年間のチャレンジでNPB入りの夢は叶わなかった。

9歳にスタートし16年間駆け抜けた野球選手としての人生、最後のチャレンジの場を与えてくれたペガサスの糸井丈之会長、背中を押してくれた両親には感謝しきれない。人として大きく成長できたと胸を張れる3年だった。可能であればこの環境から離れたくない。改めて、野球からは離れられないと実感した。

■東北楽天ゴールデンイーグルス

アカデミーチーム(2018~21)

縁があり、現役引退後はNPB球団の楽天イーグルスのアカデミーチームに就任。指導者としての人生をスタートした。

子どもたちに野球を教えながら、自らも他のコーチの指導方法を吸収し、学び続けた。自らが夢見たNPBで活躍されたコーチ陣の一挙一動は、自分にとっても大きな



永井 克弥 (硬式野球部・110期)

学びの材料となった。

コーチとして一番大切にしていたことは「相手の立場から自分を見る」とこと。子ども一人ひとりに様々な事情や思いがある。自分のものの見え方が万人共通ではない。自分の当たり前は他人の当たり前ではない。このことを肝に銘じながら、細かい部分まで目を配った。これは技術指導にも共通し、指導者の自己満足は厳禁である。「主役は子どもたち」と頭に置き、幼児から中学生までの幅広い年齢層の子どもたちそれぞれの目線に合った接し方、指導を心掛けた。

群馬ダイヤモンドペガサス

コーチ時代(2022~)

今年より、選手としてお世話になったペ

ガサスにコーチとして復帰した。自分自身もNPBを目指してプレーしていたからこそ、選手に寄り添い、伝えられることがあると思っている。独立リーグはNPBを目指してチャレンジする場でもあるが、自分のように選手人生を終える人が大半であることも事実。選手には悔いなくやりきってほしい。そのような思いで、選手の背中を全力で押せるコーチを目指している。自分自身の力不足を痛感する日々だが、「下を向いている時間がもったいない」と選手に伝えながら自分にも言い聞かせている。

高高時代から支えとなっている「人間万事塞翁が馬」という言葉を胸に、常に前を向きながら取り組んでいる。選手は目の

結果を気にしがちだが、何ごとも解釈次第で大事な糧になることを伝えていきたい。

さいごに

今回の寄稿にあたり今までの人生を振り返り、改めて思うのは何ごともとにかく「食らいつき」。高高で身に付いたこの姿勢は、今の自分の基盤となっている。今後もどんな状況でもとにかく食らいつき、少しでも社会に貢献できる人間に成長していきたい。

ここ数年は騒がしい世の中が続いています。末筆ながら、高高に携わるすべての皆さま、そしてご家族のご健勝とご多幸を祈念し、結びとさせていただきます。このような貴重な場をいただき、ありがとうございました。

こでもコロナにより活動の延期や変更を余儀無くされました。交流50年来の絆は一層固いものとなり現在に至っています。

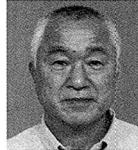
《私の高校時代からの柔道経験の経緯》

私の高校時代の柔道恩師は、一年次が今井孝造先生です。甘楽町立第二中学校で柔道を始めましたが、高校に入り、改めて講道館の正統派柔道を教わりました。柔道の奥の深さを覗かせていただきました。二年次に江原隆起先生が赴任され、巨漢でありながら繊細な先生の人柄から、人の痛みに共感する人生の基本姿勢を教えていただきました。

高崎高校を卒業した3月、進学が決まっていたがまだ入学前の筑波大学と東海大学との柔道部合同合宿で、柔道別世界に投げ出されました。筑波大学が嘉納治五郎師範を初代校長として基礎を創った東京高等師範学校の流れを汲む大学であることは、入学後初めて知った次第でした。入学前に一通のハガキにより、定められた日時に東海大学に集合することだけを確認し、内容はほぼ分からず、柔道着の一着だけ持って参加しました。言われるままに翌日の朝トレに集合し、トレーニングウェアもなく、トンガリの革靴と寝間着代わりのトレパンと半袖の下着で整列に加わったところ、先輩がつま先から頭の先まで舐めるように見た後、「この世のものは思えないような格好で参加したな。」と呆れられました。見かねた先輩が自分のTシャツを貸してくれ、靴は大学生協で一番安い運動靴を購入しましたが、結果的にはこの靴に救われまし

特別寄稿『温故知新』

群馬県柔道連盟会長 鳥居 吉二（柔道部・73期）



この度、特別寄稿をさせて頂くことになりました、73期の鳥居吉二です。高崎高校には生徒として3年間、体育教師として13年間お世話になりました。

令和3年4月に群馬県柔道連盟会長に就任させていただき、新米会長の一年が過ぎたところであります。この1年間の経過で携わった主な事業や、先の東京オリンピックに関連したこと、また、高校時代からの柔道との関わり、恩師や環境との関わりについて振り返り報告させていただきます。

《群馬開催の大規模大会二つ》

令和3年度はコロナの渦中ということもあり、県内活動は大変に制限されましたが、群馬開催の関東大会及び全国大会については無観客、実施形態の工夫等で実施することができました。

令和3年8月に、昭和57年以来39年ぶりの全国中学校柔道大会群馬大会が前橋アリーナで開催されました。中体連の先生方の数年がかりの準備と臨機応変な対応により、全日程を無事終了することができました。講道館からは上村春樹館長、全日本柔道連盟からは野瀬清喜副会長、中里壮也専務理事のご出席をいただきました。コロナ禍の真っ只中でありましたが、選手にとりましても、開催県の群馬県柔道連盟にとりましても、充分に成

果のある大会となりました。

また令和4年3月には、全日本柔道選手権大会の予選を兼ねる関東柔道選手権大会を、ぐんま武道館で開催しました。柔道選手が夢を見る全日本選手権大会の出場権をかけた大会であり、選手はもとより、審判員、運営役員も張り詰めた空気の中で試合が進行しました。ここでもコロナという制限の中ではありましたが、主管の群馬県柔道連盟として、無事大会を終了することができました。

《東京オリンピックに関するエピソード》

群馬県柔道連盟は1964年の東京オリンピック以来の永きにわたり、ハンガリー柔道連盟と交流を持っております。きっかけは高校体育教師であった故山本崇夫先生が東京オリンピック1964の支援役員としてハンガリーチームの世話係をしたことに始まり、自らもハンガリー語を学んで積極的に交流を持ち、今日に繋がっております。

昨年の令和3年7月に、コロナの影響で1年延期された東京オリンピック2020の開催を迎えるにあたり、群馬県柔道連盟は前橋市によるハンガリー柔道チームのホストタウン活動を全力で支援しました。ハンガリー柔道連盟トート会長も選手を連れて度々来県され、また本連盟の役員も選手を伴いハンガリーを訪れました。こ

ら考えました。

新宿の街に夕日が差し始める頃、ふと——忍者と妖怪が荒れた寺に閉じ込められ、ひたすら戦い続ける、という物語が思い浮かびました。映画をやっていたからか、初めのシーンからラストシーンまで、ノンストップの映画のように脳内に再生される感じで、自分で考えているというより、誰かに強制的に見せられているという感覚でした。

家に帰ってから一心不乱に原稿用紙に書き殴り、出来たものを角川書店主催の日本ホラー小説大賞に応募したこと、私は賞は受賞出来なかったものの小

説家デビューすることが出来ました。

今、紹介した小説が私のデビュー作・忍びの森(2011年、角川書店)です。

それから約十年、歴史時代小説を書いてきて、その中で培ってきたものをもう一度、忍者小説に注ぎ込みたい、この一念で書いたのが大蔵春彦賞を受賞させていただいた阿修羅草紙です。作家をしながら蓄えてきたものを全て注ぎ込んだ忍者小説なので、歴史ある賞を受賞出来て本当に大きな幸せでした。

最後に在校生の皆さん、よき友を、そして己が全身全霊を懸けて打ち込める何かを見つけて下さい。その何かを失って

も……貴方ならきっと別の素晴らしい何かを、見つけられるはずです。

¥2,310
出版社・新潮社



孤独な「くノ一」が、大乱前夜の都を疾駆する歴史エンターテインメント

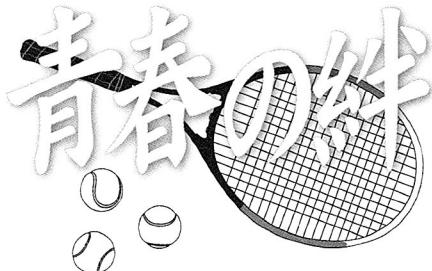
参加は初めてのことでした。当時、硬式テニスは東毛地区が中心であり、西毛地区では盛んには行われていませんでした。総体の結果は団体戦ベスト8でしたが、これが後に問題を引き起こすことになったのです。

同好会を発足させたとはいえ、学校側の正式承認が済んでおらず(生徒会の正式承認は済んでいましたが)、団体戦の結果が新聞に載ってしまい、学校の知ることとなりました。翌日登校するなり、浜辺君が「林さん、先生が職員室に来るようと言っています。」と連絡に来たのです。先生方からは無断参加の理由説明を聞かれ、懇々とお話しを頂きました。一週間くらい毎日職員室に行っていたと思います。その節は先生方・部員たちには大変なご迷惑・ご心配をお掛けしました。

最終的には、「同好会は存続、但し夏の高校総体は参加しない。」ことに落ち着きました。因って、正式に公式戦に参加したのは、この年の新人戦が最初です。私にとっては一度の総体参加でしたが、硬式テニス同好会を残すことができホッとしたのでした。

当時を振り返りますと、高校生なりに色々と工夫をしていました。ガット張りは、スポーツ専門店に頼み込み機械を無料で借用し自分達で張っていました。ボールも県大会等で使用したものを安く購入したと思います。

テニス部



KIZUNA

林 良成(78期)

硬式テニス部の思い出

今年、高崎高校硬式テニス部(同好会を含む)は創立45年を迎えます。このように長く存続出来ているのは、先生方・OB及び生徒の皆さんの努力があってこそだと思います。部の創立に携わった一人として本当に感謝しております。ここで45年前を振り返り、どのような経緯から硬式テニス部が始まったのかを話そうと思います。

話は創立の一年前に遡ります。当時、一年生の私は硬式テニスを始めたく、いろいろ伝手を探していました。現在のようにテニスクラブは多くなく、やっと前橋のゼネラルローンテニスクラブが硬式テニススクールを開催しているとの話を聞き入会したのでした。ある日のことです、二時間のスクールが終わりクラブハウスに戻ろうとした時、一人の中学生が話かけてきたのです。「すみません、高崎高校の方ですか?

僕は浜辺(79期)と言います。来年、絶対に高高に合格しますので、一緒にテニス部を作りましょう。」突然のことで驚きましたが、後々思うとこの一言こそが高崎高校硬式テニス部の始まりなのです。話を聞いてみると、浜辺君は中学から硬式テニスを続けており、高校でも一緒に硬式テニスができる仲間を探しているとのことでした。私は「浜辺君はまだ入学していないし、来年のことだからどうなるかわからないな。」とその後はすっかり忘れていました。

そして、翌年4月になり、二年生となった私の教室に一年生が訪ねてきました。相手が誰かわからなかった私に彼が言ったのです。「林さん、約束ですよ。硬式テニス部と一緒に創りましょう。」この一言で一年前の浜辺君との出会いをやっと思い出したのでした。さらに驚くことに、浜辺君は使用するコートや顧問の先生候補も目ぼしをつけているようでした。部員集めですが、特に苦労はありませんでした。硬式テニスを始めたい生徒は多かったのです。この時集まった79期の部員(原君・小池君・和田君達)こそが今の公式テニス部の礎を創ったと思っています。

さて、顧問の先生(石北先生)も決まり、部員も集まり、吉野コート(今はプールとなっています)で活動を開始した私達の次の目標は高校総体に出場することでした。そして、創部の翌年春、総体に初出場したのです。西毛地区の公立高校からの

CLINIC 内科・皮膚科・泌尿器科・外科
いわい中央クリニック
院長 神保 裕之 (スキー・スケート部83期)
診療時間 AM9:00~12:30 PM3:00~6:30
休診日 木曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日
安中市岩井2465-1 ☎027-381-2201 電話予約可

産科婦人科
館出張
SATO HOSPITAL
佐藤病院
院長 佐藤 雄一
スキー・スケート部OB(86期)
〒370-0836 群馬県高崎市若松町96
TEL.027-322-2243 / FAX.027-322-8248
http://www.sato-hospital.gr.jp/

NUNANO 沼野クリニック
内科・胃腸科・外科・皮膚科・美容外来(予約制)
院長 沼野 藤雅 (スキー・スケート部89期)
診療時間 : AM9:00~12:30 PM3:30~6:30
休診日 : 日曜・祝日 皮膚科・美容外来は木曜のみ診察
高崎市柳川町15番地 ☎027-322-2926

テニスクラブ出身者が多い中、部活動だけで高校総体で上位に勝ち上がるのには難しいかも知れません。しかし、部活動には母校の誇りを背負って戦う魅力があります。これからも高崎高校硬式テニス部が繁栄続けることを願っております。



KIZUNA 板橋 マリオ(94期)

先生や部員に感謝

私の実家が学習塾を経営していたこともあり、高校は文武両道を目標に掲げている高高と決めていました。また、これには高高が大正時代にテニスで世界的に活躍した清水善造(7期)の母校であつたことも大きく影響していました。

私は小学校2年生からテニスを始めましたが、これは当時の群馬県ではまだ珍しかったと思います。そして、進学した地元の中学校には軟式テニス部しかなかったため、私は部活動の代わりにテニススクールへ通い、3年生のときには県大会のシングルスで優勝することができました。

このように、私のテニス歴は高高に入学したときには既に約8年、一方で当時はまだ高校からテニスを始める人が多かった時代でしたから、私はすぐに団体戦のレギュラーになりました。このような1年生は高高テニス部の歴史でおそらく私が初めてで、上級生からすると扱いにくかったと思いますが先輩方にはとても仲良くしてもらい、なかでも部活動の後に3年生の家で麻雀を教えてもらったことはとても良い思い出です。

但し、高校進学後も私のテニス活動の中心は部活動ではなくテニススクールでした。本来はテニス経験の長い私が他の部員たちに技術指導をするべきだったと思いますが、当時の私には先輩や同級生に対してコーチのように振る舞うことに抵抗がありました。加えて、県内に同学年でどうしても勝てない相手がいたこともあります。部活動でコーチ役をする心の余裕はありませんでした。

しかしながら、顧問の塙越究先生(73

期)は、私の気持ちを配慮してくださり我儘を許してくれました。また、副顧問の中谷賢一先生は、私が宿敵に勝てるようと早朝練習に付き合ってくださいました。そして、部員たちはこんな自分勝手な私を応援してくれて、団体戦では実力以上の力を発揮することができました。こうして、3年生で迎えた県高校テニス総体兼関東高校大会県予選の団体戦では、試合に出場した選手はもちろんのこと、先生やテニス部全員の力で創部以来初の優勝を果たすことができました。私は他にも個人戦ではインターハイや国体に出場しましたが、やはり高校生活の一番の思い出は、この団体戦の優勝で間違いありません。

高校卒業後は横浜国立大学に進学し、同大学院修士課程を経て、「自分が生活の全てをかけて必死に練習したらどれだけ上手くなれるのか」を知りたくてプロテニスプレーヤーとして6年間活動しました。引退後はテニスの指導者として活動しこれまでに約1万人の愛好家にテニスの楽しさと上達方法を伝えてきました。そして、現在は神奈川県相模原市にある北里大学の専任講師として、テニスはもちろんのこと様々な運動・スポーツの楽しさや健康に関する知識と維持増進のための実践方法を学生たちに伝えています。また、公益財団法人日本テニス協会のテニスマニア委員として、清水善造先輩をはじめとするレジェンドたちの功績を後世に伝える活動にも携わっています。

今回、北村真行先輩(85期)から寄稿を依頼され、一度は「私のような者が高高テニス部の青春の絆を語るなんて申し訳ない」とお断りしましたが、こうして当時お世話になった先生や部員に改めてお礼を述べる機会をいただけたことを感謝しております。今後はOB会活動にも積極的に参加し、様々な年代の人たちとテニスを通じて親交を深めていけたらと思っています。



KIZUNA

大野 岳(108期)

テニス部の思い出

私が高高テニス部で活動していたのは2006年~2009年のことである。まだ若い気持ちでいるものの、もう13年ほど前のことになる。それでも、今回、せっかく寄稿の機会をいただいたので、思い出せる範囲で、当時のことを振り返ってみたい。

私がテニス部に入部した当時、とにかく部員が多かったのを覚えている。当時の2,3年生の先輩方だけでも30~40人くらいいたのではないかという記憶である。テニスコートは3面しかなかったことに加え、入部したての頃は、高校総体も間近に迫っていることもあり、入部したての私達の代は、入部後しばらくは、コートで打つことができず、基礎体力作りのため、風車コースと呼ばれる観音山のコースを走りこんでいた。それでも、中学時代帰宅部だった私にとって、仲間と共に走りこめるというのはとても楽しく感じたし、今思うと、1日に何試合もシングルスの試合をすることができたのは、この時の基礎体力作りのおかげだったのではないかと感じる。

3年生が引退すると、いよいよ私たちの代もコートで打てるようになった。ようやくコートで打てるようになり、とても感動したのを覚えている。ただ、1つ困ったことがあった。高高的テニスコートのイレギュラーの多さである。当時の顧問の中村先生は「100%くらいの確率でイレギュラーするから気を付けて」とおっしゃっていたのを覚えている。さすがに100%ではないと思うが、70~80%くらいであろうか(笑)。高高的テニスコートで練習試合も何度も行われた。練習試合終了時に、相手校の部長から一言挨拶をいただくのであるが、ある相手校の部長から「今日は、『珍しいクレーコート』で試合をさせていただけます」と言わされたのを覚えている。その相手校のテニスコートは、オムニコートなので、クレーコートでプレーできるのが珍しいことだという趣旨ではあるのだが、いつもイレギュラーに悩まされていた我々としては、「珍しいクレー

社会福祉法人 岳雄会幼保連携型認定こども園

エデュカーレ城之内

モンテッソーリ教育実施園

高崎市浜川町249-3 TEL 027-343-1676

山岳部OB(79期) 理事長 吉井 昭道

山岳部OB(84期)

代表社員・税理士 真下 哲夫

税理士法人 真下経営

高崎市倉賀野町3557-4 TEL 027-346-1463

山岳部OB(78期)

税理士 吉井 章一

吉井章一税理士事務所

高崎市上中居町251 TEL 027-328-6701

コート」とは「イレギュラーがとても多いクレーコート」という意味かと曲解してしまったものであった(笑)。

さて、私が入部したての頃の先輩方は、とにかく強かった。団体戦で全国選抜にも出場していたし、団体戦で県優勝も果たしていた。このような先輩方のように強くなりたいと思って日々練習に取り組んでいた。当時の人はアニメ「テニスの王子様」の必殺技なども参考にしていた記憶がある(もちろん、アニメのように打てるわけはないのだが)。しかし、現実はそう甘くはなく、私たちの代は、結果的には、

団体戦県ベスト16が最高成績であった。その時感じたのは、太田地区を中心とする東毛地区の強さである。東毛地区では、中学校から硬式テニス部がある学校が多く、やはり、高校からその差を埋めるということは簡単ではなかった。今はどうなっているのかはわからないが、個人的には、ぜひ、東毛地区だけでなく、全県に中学校から硬式テニス部を設置することが、県全体の硬式テニスのレベルアップにもつながるのではないかと思う。

さて、現在も私は、週に1回程度、吉井町のテニスコートにて、硬式テニス部の

草創期の大先輩方とテニスをさせていただいている。私がテニス部でこのような貴重な経験ができたのも、草創期の先輩方のご活躍があつてのことである。私なりの恩返しの意味も込めて、今後も、高高テニス部の発展のために、私にできる限りの協力をていきたいと思っている。

当時のテニス部の同期のメンバーとは、今でも連絡を取りあっている。当時の話をすると、やはり懐かしい気持ちになる。このコロナ禍でなかなか直接会うということはできないが、久しぶりに同期でもテニスをしてみたいのだ。

2021事業報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

- 4 6日 ● 第1回役員会議(翠巣会館)
- 5 13日 ● 第1回編集会議(翠巣会館)
- 6 ● 第2回編集会議
(メールにて)
- 15日 ● 監査役会(ホドリ)
- 16日 ● 関東大会出場祝金贈呈
陸上、山岳、ソフトテニス、
柔道、バレー(高崎高校)
- 17日 ● 第2回役員会議
(翠巣会館)
- 24日 ● 第47回定期総会(代表者のみ)
(グランビューホテル)
- 24日 ● 翠巣体育第40号発行
- 7 29日 ● 国体出場祝い金贈呈
バレー、柔道、バスケット
(高崎高校)
- 29日 ● インターハイ出場祝金贈呈
陸上(高崎高校)
- 29日 ● 北関東大会出場祝金贈呈
軟式野球(高崎高校)
- 8 10日 ● 第22回高前OBゴルフ定期戦
(白水ゴルフ俱楽部)
- 9日 ● 高崎高校マラソン大会
優秀者表彰(高崎高校)
- 11 14日 ● 翠巣体育会忘年会
(情報交換会)
(グランビューホテル)
- 12 1日 ● 高崎高校卒業式(高崎高校)



●国体・インターハイ・北関東大会祝金贈呈



●マラソン大会 優秀者表彰



●総会



●関東大会祝金贈呈



●忘年会(情報交換会)



ナカシマ酒・ワイン
ナカシマ酒・ワイン

有限会社 仲沢酒店

仲澤 賢一 (バスケットボール部 第86期)

高崎市八千代町1-12-4
(和田橋通り)
電話 027-323-1621
FAX 027-326-2141

(社)日本ソムリエ協会認定 シニアソムリエ
(社)日本ソムリエ協会 群馬支部部長
ホームページ <http://www.nakashima.com>

株式会社 塚本工務店

塚本 浩史 (バスケットボール部 第99期)

本社 〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡1848-1 TEL.0274-23-1212㈹ FAX.0274-24-2300

■ 高前OBゴルフ定期戦結果

高崎802ストローク：前橋809ストローク
高崎勝利

順位	氏名/学校名	OUT	IN	GROSS
優勝	濱野 哲敬(高崎)	37	34	71
準優勝	小保方 徹(前橋)	38	35	73
3位	大田部 功(高崎)	39	38	77
//	森田 志郎(前橋)	37	40	77
5位	立見 友孝(高崎)	39	40	79
//	川手 和義(高崎)	39	40	79
//	飯塚 伸彦(前橋)	37	42	79
//	堀 正明(前橋)	38	41	79



●第一回役員會議



●第一回編集會議

■ 令和3年度 翠巒体育会会計報告

収支計算書（自令和3年4月1日 至令和4年3月31日）

科 目	金 額	摘 要
収入の部		
年 会 費 収 入	375,000	15部
同窓会補助金	300,000	高崎高校同窓会
広 告 費 収 入	315,000	15部
親 瞳 会 収 入	0	総会のみ開催
ゴルフ大会収入	0	中止
翠巒体育忘年会収入	85,000	令和3年12月14日 ホテルグランビューカリコ
雑 収 入	72,000	同窓会ゴルフ補助金、祝金 会議個人負担、寄付金等
受 取 利 息	5	
(当期収入合計)	(1,147,005)	群馬銀行
特別会計取崩金	0	特別会計より取り崩
前期繰越収支差額	920,709	
収入の部合計	2,067,714	

財産目録（令和4年3月31日現在）

科 目	金 額	摘 要
資産の部		
現 金	21,487	現金手許有高
預 金	700,127	群馬銀行高崎栄町 (普) ⁰ 0783238
正 味 財 産	721,614	一般会計分

口座振込ご利用の場合は、下記口座までお願いします。
群馬銀行 高崎栄町支店 普通預金0783238

スイランタイイクカイ カイケイ シミズ ハジメ
翠巒体育会 会計 清水 元

期)の代表よりありました。当日の様子の写真が、翠巒体育会ホームページに掲載されていますので、ご覧ください。

世の中全般に「ウイズコロナ」を模索する動きが見られます。またコロナ禍を通して「新しい生活様式」について考える機会も増えてきました。この両面から、定期総会及び懇親会はもちろん、今後の翠巣体育会全般的活動について皆さんで考えて行けたら、と思います。

翠鸞体育会忘年会

山岳部／吉井 章一(78期)

令和3年12月14日(火) ホテルグラ
ンビュ一高崎にて翠巒体育会忘年会が行
われました。昨年度はコロナの影響で中
止となりましたので2年ぶりの開催とな
ったとともに各部の代表者ののみの参加と

科 目	金 額	摘要
支 出 の 部		
総会・親睦会費	77,310	令和3年6月24日 ホテルグランビューカリコ
現役等補助金	315,630	関東大会、インターハイ等 出場の運動部、 マラソン大会
会報発行費	441,100	翠巒体育会第40号
ゴルフコンペ費	0	中止
翠巒体育忘年会費	125,400	令和3年12月14日 ホテルグランビューカリコ
W.F.K (若手を増やす会)	0	中止
慶弔見舞金	89,000	生花等
事務用品・通信費	210,000	ホームページ管理費等
会議運営費	87,330	編集会議、役員会議等
銀行振込手数料	330	群馬銀行
(当期支出合計)	(1,346,100)	
特別会計拠出金	0	特別会計への拠出金
支 出 の 部 合 計	1,346,100	
(収支差額)	(△199,095)	(当期収入合計) - (当期支出合計)
次期繰越収支差額	721,614	収入の部合計-支出の部合計

特別会計（令和4年3月31日現在）

科 目	金 額	摘 要
資産の部		
普通預金	801,526	群馬銀行高崎西 (普井)0593363
特別会計財産	801,526	特別会計分

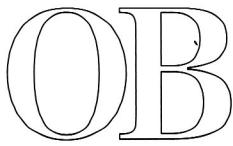
なり、コロナ感染症対策に配慮しての開催となりました。

まず、顧問である高橋前会長から翠巒体育会の歴史並びに同窓会との関連性を説明していただき、この会の存在理由を知るよい機会となりました。

また、各部代表者からはそれぞれのOB会での活動内容を伺いました。コロナ禍で例年行われている活動が制約を受け中止となっていること。総会等が開催できないことにより会費納入の伸び悩みがあること。若い世代にOB会の存在意義を感じてもらう機会を奪われていること。様々な問題が生じていることが報告されました。

コロナが収まれば以前とは若干違う形のOB会活動となるかもしれません、再び楽しい時間を過ごせることを願っておられます。





各運動部OB会の近況報告



陸上競技部
茂原 賢三
(89期)

この春の県立・公立高等学校の教員人事異動において、陸上競技部顧問であられた新井康司先生が藤岡中央高校定時制の教頭職にご栄転・異動なされました。新井先生は高崎高校に7年間勤務され、その中では、2018年と2019年に大平海史氏(119期)が全国インターハイの走り高跳びにおいて、それぞれ5位・4位と2年連続入賞、2021年には井上直紀氏(121期)が同じく全国インターハイ100mで2位入賞、その他にも4×100mリレーを始めとして多数の全国インターハイ出場選手を育成・指導されるなど、大変ご尽力頂きました。この紙面をお借りして、改めて新井康司先生にOB一同、厚く御礼申し上げるとともに新天地でのご活躍を御祈念申し上げます。

そして、新たに本校陸上競技部OBである稻垣圭吾氏(100期)が赴任されて、陸上競技部顧問として指導されることになりました。稻垣先生は、現役高校生・選手時代は棒高跳びをメインに競技に取り組んでこられ、前任高校の安中総合高校でも熱心に生徒部員の指導に取り組んでこられました。母校に赴任され、教え子であると共に後輩でもある生徒部員の指導にあたられることになり、他の高校で指導するのとは一味違った気持ちではたまたプレッシャーを感じることもあることが推測されますが、本校陸上競技部OBは、皆さん素敵な(?)方々ばかりなので、無用なプレッシャーを感じることなく、安心して思う存分ご活躍して頂きたいと思います。

さて、昨年度の陸上競技部OB会の活動ですが、一昨年に引き続きコロナ禍の影響により、紙面による総会と現役卒業生(&新会員)への記念品(OB会オリジナルネクタイ)の贈呈は実施できたものの、OB会総会・懇親会や現役部員への大会応援・激励等の、これまで実施してきた活動は出来ずじまいでありました。編集委員の私自身にとっても、昨年度に引き続き翠巒体育会報の原稿に寄せるネタ探しに大変苦慮いたしました。

しかし、昨今では我が国でもあらゆる方面で「with コロナ」に舵をきった動向が見られるようになってきました。おそらく甲斐俊輔OB会長(87期)が本年度の活動について、妙案を練っていらっしゃることと思われます。OB一同皆で甲斐会長を支えていきたいと考えています。皆様の御協力を御願い申し上げます。



スキー・スケート部
寺澤 佑介
(95期)

いつもOB諸兄、および関係者の皆様には大変お世話になっております。
ワクチン接種が進んだこともあ

テニス部OB(84期)

山口 正仁

オーダーメイドの生命保険をお届けしています!
ブルデンシャル生命保険株式会社 品川第二支社
TEL 03-6682-4440 携帯090-9309-9492

芸大美大美術系高校 受験予備校 **高崎美術学院**

高崎市岩押町35-12 ☎027-322-6548
<http://www.art-takabi.com>

社会人のための美術教室 **アートフォーラム高崎**

高崎市岩押町31-11 ☎027-326-5585
<http://www.art-takabi.com/artforum>

代表 北村 真行 (テニス部85期)

テニス部OB(91期)

原 寛

カネト水産 つりばり・虹鱒料理・手打ちそば
高崎市倉渕町川浦3900-156 ☎027-378-3132
ホームページ <http://www8.wind.ne.jp/wakaba/>

り、行動制限のない大型連休となりました。

皆様のご健康とご多幸、そしてこのまま平穏な日々が戻りますことを、お祈り申し上げます。

毎年、十一月に高崎市内で行っていたOB総会、懇親会ですが、コロナウイルスの影響で残念ながら中止となりました。

近年、スキー・スケート部は部員の減少という心配な状況が続いているました。

昨年は……現役部員0人という大変、悲しい事態になってしましました。

OB一同、この事態に深く心を痛めておりました。

今年、顧問の先生から、朗報がありました。

スキーの方で新入生が一名入ってくれたとのことでした!

夏場は筋力トレーニング等を行い、冬に備えてゆくとのことです。

現役部員一人というのは、何かと心細い部分もあるかもしれませんのが、是非頑張っていただきたいと思います。

スキー・スケート部OB会としましては、伝統あるスキー・スケート部が明るい再出発が出来るように、また現役部員の数がもっとふえるように、出来る限りのサポートをし、知恵をしぼってゆきたいと思います。

なお今年こそは、新型コロナウイルスによって数年間、中止になっていたOB総会、懇親会の方を冬に行えればと思っております。

OBの皆様、関係者の皆様のご健康をお祈りしております。

スキー・スケート部OB会の方、どうぞこれからも宜しくお願いいたします。

2020年来、コロナ禍での生活がいまだに続いています。そんな中ではありますが、最大限の注意を払いながら様々な活動が再開されてきています。そんな中での我々硬式野球部OB会の活動をご紹介します。

まずはOBによる野球チーム「翠巒クラブ」の活動です。高校野球の単独OBチームであり、ユニホームも現役高校生と同基調のデザインである我々のチームは、県内でも注目のチームです。40歳以上の「壮年野球」、50歳以上の「熟年野球」で活動をしています。50歳以上のメンバーによる「熟年野球」では、2021年度も「第39回群馬県熟年軟式野球大会(2021/7~8開催)」に出場



(4大会連続出場)し、ベスト8に進出しました。また、こちらも全国的に定着してきた「マスターズ甲子園」県内の高校野球OBによる「群馬県高校野球OB大会」(マスターズ甲子園の県予選)も例年通り5月の連休に開幕しました。昨年度(2021年度)も73期の先輩から2012年の選抜甲子園大会出場世代、そして現役大学生など多くのOBが集まり、こちらもベスト8に進出いたしました。今年はさらに多くのOBに参加していただき、さらなる上位進出を目指します。

次に「現役世代の応援」ですが、コロナ禍での試合会場は入場制限が行われており、なかなか応援に駆けつけることが難しい状況です。しかし試合が開催されることに感謝し、現役生にも頑張って欲しいと願っております。後輩たちの活躍を伝える紙面を楽しみにしています。ちなみに、甲子園大会は今夏から観覧席を全面解禁予定ですので、是非とも頑張って頂きたいところです。

最後に、硬式野球部OB会はホームページ

<http://takataka-baseballob.com/>

を立ち上げています。こちらには現役生の大会日程やマスターズ甲子園大会の日程などを掲載しています。まだまだコロナの影響は続くと思われますが、OBの皆さんには是非ともホームページ覗いていただき、現役生の応援やOB会の活動に参加していただければと思います。



日頃よりOB諸兄をはじめ、関係各位には大変お世話になっております。新型コロナウィルス感染症の度重なる蔓延により、OB会も今までのような活動ができずしておりますが、今年は毎年元日に開催されている現役とOBとの交流戦を行い、中澤OB会会长より現役支援として支援金を贈呈させていただきましたことをご報告申し上げます。

この支援金を現役の備品や環境整備等に役立てていただければ幸いです。また、この他にも様々な場面でこれまでにも多くのOB諸兄が現役の支援をいたしており、改めて感謝を申し上げます。

99期の卒業生である小澤朋克先生が、新たに顧問に就任されたことは前回でもお伝えしましたが、経験豊富なベテランの活躍のみならず、若いOBが社会の様々な場面で活躍をしている



製鋼原料・非鉄金属
産業廃棄物収集運搬・計量証明
上越鋼業株式会社
代表取締役社長 波瀬 憲昭 同窓会副会長
高崎市上豊岡町560-10 ☎370-0871(八幡第二工業団地)
TEL(027)343-1325(代) FAX(027)343-9569

高橋浩生税理士事務所
税理士 高橋 浩生 第4代翠巒体育会 会長
税理士 白井 浩一 水泳部(89期)
〒370-0072 高崎市大八木町3002番地10
TEL.027-363-6303 FAX.027-363-6302
http://www.kaikei-home.com/cpta_hiro-hp/

有限会社 北原タイヤ商会
各種タイヤ販売・卸・修理・各種ホイール販売
代表取締役 北原 幸一 バレーボール部OB(86期)
〒370-0043 高崎市高闘町316-6
☎(027)323-5988 FAX(027)323-5858

様子を耳にします。この紙面上では全ての方を紹介できませんが、このような若手とベテランのOB同士のつながりを保ち続けることで、OB会の存在意義や現役生がこの会をうまく活用する機会を提供したいです。結びに、本稿をご覧になっているOB諸兄の引き続きのご支援ご指導をよろしくお願ひいたします。



山岳部
吉井 章一 (78期)

昨年度は新型コロナウィルスの影響で現役生との交流の機会は全くありませんでした。一昨年も同じことでしたので2年間このような状況が続いております。

例年の活動は翠巒祭の期間中に会合を持ち、さらに夏合宿前には差し入れという形で現役生と交流を継続しておりました。今年何らかの接点がなければ、3年生とは一度も顔を合わせずに卒業ということも予想されます。OB会という組織の存在自体を伝える機会を失ってしまうことに危惧の念を抱いております。

「同じ釜の飯を食う」仲間との再会の場を演出するためにも、OB会の存続は十分意味があることと考えております。このコロナ禍での2年あまりはこの存在意義を問われるものであったと感じております。



応援部
武藤 靖秀 (106期)

今年は2名の新入生が入部し、第71代應援部は計8名を擁することとなった。5月に行われた一日練習でも、大迫力のリーダーが披露され、現役生の溢れる熱意を直に感じさせてもらうことができた。

しかし、練習に励む彼らの姿を見ていると、どうしても惜しい、悔しい、という気持ちを抑えきれない。この熱気を、もっとより多くの人達に届けられたらいいのに。数年前までは、OB会と現役生が一丸となって、リーダー公開の機会を押し広げつつあっただけに、よりいっそう残念だ。

高らかに校歌應援歌を歌い上げ、二連呼でもって益々会場を盛りあげんことを目的とする應援部にとって、マスク無しでは小声で話すことさえ躊躇わるここ数年、なかなかに厳しい情勢が続いている。



そんな苦境のさなかにある現役生を支えるため、應援部OB会では、新入生勧誘補助からユニフォーム提供など、大変微力ながらも現役生支援を続けている。晴れ舞台での現役生との交流が、やむをえず少なくなってしまっているのが実に歎がゆいところではあるが、また現役生と肩を組み、應援の声を振り絞ることのできる日を、心底楽しみにしている。



翠巒体育会の会員の皆様には、日頃よりお世話になっております。

高崎高校ラグビー部OB会は、現役生の応援のための活動を行って

います。

昨年度もコロナ禍の中で、例年行っていた「OB戦」「新年総会」や「ラグビー祭」を自粛しました。残念ではありましたが、現役生やOBの健康を考え、正しい判断だと思っています。

ところで、高高グラウンドのラグビーポールが腐敗して使えなくなってしまい、顧問の先生からの依頼で、ラグビー部OB会で新しいラグビーポールを立てる事を理事会で決定し、寄付を募る活動を始めたことを昨年度、この会報で報告しました。

その結果、たくさんのラグビー部OBから募金が集まりました。そのほかにも、翠巒体育会の会員の皆様や高崎高校OBの皆様からも暖かい募金をいただきました。この場をおかりしてお礼を言いたいと思います。「本当にありがとうございました。」6月に工事が始まり、7月の終わりには工事が終了し、立派なゴールポストが完成しました。

コロナ以前には毎年行われていた菅平での夏合宿も昨年度と同様中止となっていました。そこで、夏休みの練習に若手OBに参加してもらい、雰囲気を盛り上げていこうと考えましたが、8月には警戒度が上がり、高校の方から、OBの練習への参加は控えて欲しいと言われてしまいました。残念でしたが、部員の安全を守るために仕方のないことです。

そんなコロナの中ですが、12月にラグビー部OB会主管で1年の体育の授業においてラグビーの体験授業を行いました。もう5年目になりますが、たくさんのOBが授業に参加してくれました。高崎高校の「校技」であり、年配のOBにとっては懐かしい体育



での冬のラグビーが授業で復活できるよう、ラグビー部OB会は高高のラグビー授業にも積極的に関わっていきたいと思っています。

これからも高高ラグビー部がさらに躍進できるよう、春の関東大会、夏の7人制ラグビー全国大会、冬の花園全国大会出場に向け、OB会は一層の支援を行っていきたいと思っています。



テニス部OB会の活動の中心は、毎夏お盆休みの土曜日、母校のテニスコートにて現役部員との交流試合を行い、同日夜の総会・懇親会が恒例行事となっています。しかしながら、これは他部のOB会も同じ状況かと思いますが、コロナ禍により、残念ながら2020年、2021年は中止という憂き目に遭っています。今後の感染状況を睨みつつも、今夏こそせめて久しぶりに現役生の諸君とテニスを通じた交流を復活させていと願っている、そんな現況です。

さて、そんな状況ではありますが、在郷のOB数名は毎週日曜日の午前に吉井運動公園運動場のハードコートに集まり、夏の猛暑や冬のカラッ風にも負けず、通年で練習に勤んでおります。齋藤先輩(83期)、長谷川先輩(83期)、清水先輩(83期)に始まり、下は笠原君(111期)まで縦に長く、世代を超えたメンバーで打ち合っています。この定期練習はかなり以前より長く続いており、かつては市民大会の団体戦に「高高OBチーム」として参戦したりもしていました。こうしたテニスという競技を通じた先輩諸兄、同期、後輩との繋がりが現在も続いているのは、思えば22年前、翠巒体育会の加入を機に「テニスOB会」が結成されたことが嚆矢となっています。今後も翠巒体育会の発展の一翼を担えるよう、このOB会を末永く盛り上げていきたいと思います。

最近、風の便りですが、高中OBでウインブルドンベスト4の偉業を誇る清水善造(7期)をモデルとして、NHK朝ドラの企画に上げて行こうという活動が地元に起こっていると聞きました。このような活動にOB会としても何か助力できるのではないか、などとも考えてもいます。



RISE® ライズ総合保険

MS&AD あいおいニッセイ同和損保 総轄代理店

TOUGH SHOP ぐんま中央

代表取締役 富田 和弘 (応援部 85期)
武山 雄海 (ハレー部 102期)

Tel 0370-0044 高崎市岩押町25-18 Tel 027-322-2364

GSD Global Solution Developer ホームページ、WEBシステムの作成はお任せください。

株式会社ジー・エス・ティー

専務取締役 佐藤 英樹 (応援部 92期)

〒370-0058 高崎市九蔵町 25-1 WESTIN I 503号
TEL:027-323-3880 FAX:027-310-2667
URL: <http://www.g-s-d.net> mail: h_sato@g-s-d.net

ででこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚 NET CEBU流学

適塾

www.tekijuku.info 塾長 櫻井 健一 (応援部 87期)



水泳部
糸井 良弘
(79期)

令和3年度の水泳部OB会の活動は、令和2年度と同様にコロナ禍の影響でほとんど行えない状況となりました。昨年度の卒業生は高校生活3年間のうちの2年間をコロナ禍で過ごしたということで、彼らのことを思うと心中複雑な気持ちになります。一日も早くマスクを外して伸び伸び生活できる日が戻ってくことを願っています。

水泳部OB会では役員定例会を2ヶ月に1度くらいの日程でリモートで行いました。21年3月末の時点では、夏まではコロナが収まっているであろうとの期待も込めて、過去に行っていた「現役生たちに焼き肉をふるまう会」を復活させようという流れになりました。

OB会費から費用の一部を負担して、多くのOBの方々に現役生と交流、応援に参加して欲しいという計画でしたが、5月にはコロナの蔓延防止条例が発動されることになり、「焼き肉をふるまう会」は断念せざるを得ませんでした。

そんな状況下ですが、まだ名簿に記載できていないOB会員を発掘したり、卒業生に記念のネクタイを手渡すことをしたり、地道にできることを進めています。



サッカーチーム
佐藤 雄一
(97期)

サッカーチームOB会は、主に30代までの社会人を対象とした「翠巣サッカークラブ」、40代を対象とした「翠龍ミドルFC」、さらに50歳以上を対象とした「翠龍FC50」の活動を通じて、会員間の交流をはかっています。現在、残念ながら翠巣サッカークラブは活動を休止していますが、翠龍ミドルFCと翠龍FC50は、近年、登録者が増加している群馬県シニアサッカーリーグに所属し、多くのOB会員が生涯スポーツであるサッカーを楽しめる環境が整っています。ちなみに、群馬県シニアサッカーリーグは、3部リーグ制53チームで構成されており、全試合芝のグランドで試合ができる非常に恵まれた環境です。

また、OB会活動のもう一つの柱である「現役生との交流・支援」については、従来実施していた「初蹴り」「総会・新年会」「前橋高校サッカーチームOB会との交流戦」という恒例行事が、引き続きコロナの影響により休止状態にあります。そして、現役生の公式戦も依然として制約がある状況が長引いており、助成金やホームページによる広報活動を継続している一方で、現役生とOB会との交流の機会が失われています。

しかし、少しずつコロナによる影響も和らぐなか、あらためて対面による交流の大切さも浮き彫りになっており、サッカーチームOB会としてもアフターコロナにおける活動のあり方を模索する時期にきていると感じています。伝統的な行事を大切に継続しつつ、これから時代に合った活動を模索できればと考えています。

最後に、昨年度に本稿で紹介した、私の職場に新人として

配属されたサッカーチームOBの後輩とは、私が異動した後も交流が続いています。20歳程も離れてますが、やはり何か通じるものがあり、いつの間にかその後輩とのやりとりを通じて自分の世界も広がっていることを嬉しく思います。同時に、自身も多く先輩から良くしてもらってきたことを思い返しています。



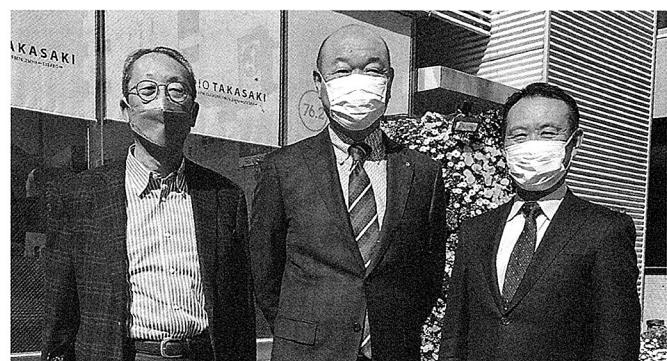
剣道部
瀧野 修司
(86期)

今年も、剣道部OB会の例年行っている活動が新型コロナウイルスによって大きな影響を受けました。夏・春の合宿や遠征が中止のため、それに伴って行っている援助ができなくなったり、1月3日に開催しているOB稽古会と総会・新年会についても開催できなくなったりしました。

我々OBとしてできることが限られる中、部活動中止や対外試合中止の合間を縫う形で、中学教員で剣道部顧問のOBが勤務校の剣道部員とともに高崎高校に練習に出向いて交流を行うことができました。また、剣道場で使う扇風機の購入や壊れたヒーターの新調など、物品面での援助も行いました。

OBの活躍としては、八段を取得された小池政一先輩(77期)と、高崎市でもう一人の八段取得者の谷勝彦さんとの対談がラジオ高崎で企画されました。本紙が発行される頃に放送の予定ですが、ラジオ高崎社長の大山駿作先輩(71期)の取り組みで実現したとのことです。機会がありましたら、ぜひお聴きください。

高校剣道部の活動も、顧問の木村先生、副顧問の田中先生と兵藤先生に熱心に指導していただいている。新型コロナウイルスの影響で先の見通しが十分に立たない状態ですが、今後もOB会が高崎高校剣道部の活動を全面的に支援し、一層もり立てて行きたいと考えています。



柔道部
伊藤 俊一郎
(92期)

2022年初は、新型コロナウイルス感染症の影響がある程度収まっている時期でした。柔道部は2年ぶりに、1月3日に高崎高校柔道場にて現役・OBでの稽古始め、及びOB会新年会を行うことが

表野登記測量事務所
土地・建物の登記・測量／開発申請／相続／各種許可申請
土地家屋調査士 表野 真拡 (ラグビー部・83期)
高崎市小川木町1450番地7
TEL.027-370-1286 FAX.027-370-1287
E-mail hyono.m@aria.ocn.ne.jp

しばやま歯科
柴山 佳行 (ラグビー部・96期)
〒370-0849高崎市八島町107-102
TEL.027-393-6480

靴のことならトリオ
専務 吉村 祐二 (ラグビー部・101期)
株式会社トリオ 群馬県高崎市若松町92
TEL.027-322-4192



できました。

稽古始めは、現役5人、OB22人が参加しました。コロナ感染防止策として稽古前に検温を行い、打ち込みや乱取り稽古はマスク着用のままで行われ、また稽古見学者は一部関係者のみで保護者の見学はありませんでした。稽古内容は、群馬県柔道連盟会長を務められている鳥居吉二OB会長(73期)と、田中利明監督(2020年4月から群馬県庁スポーツ振興課国民スポーツ大会準備室へ異動に伴い、外部指導者)、学校から川田智広先生(柔道部副顧問)が見守る中、寝技打ち込み・寝技乱取り2分×10本・立技打ち込み・立技乱取り3分×7本を順に行い、インターバル後、5対5の現役・OB対抗戦を行いました。強いOBに対し現役生から積極的に技を仕掛け、見事、現役生がOBから一本で1勝をもぎ取りました。稽古全般として、OBが現役生に技の指導や助言をする場面が多く見られ、柔道を通じた先輩後輩の強いつながりが確かめられていました。

新年会は、グランビュー高崎でOB15人が参加しました。会場側のしっかりとしたコロナ対策の中で、参加者は節度とマナーを守りつつ、久々のOB同士の交流の時間を和やかに過ごすことができました。



卓球部
堤 康高
(71期)

卓球部OB会の年間行事は、コロナ前であれば夏冬2回の現役生との交流試合と秋のゴルフコンペ(参加者減少のため翠巒体育会コンペに便乗)、そして新年会が定番になっていました。

どのOB会も同様でしょうが、人が集まるのが悪いような風潮のため2020年度はすべて中止になりました。

2021年度はいくつかの卓球大会が開催されるようになったため、OBの何人かは個人的に大会に参加するようになり、徐々にではありますか連絡を取り合えるようになりましたので、2年ぶりに少人数ではありますが新年会も開催しました。

卓球部のOB活動の参加者は、先生や公務員が多いのですが、活動が制限されているようなので、早く制限が解除されるように祈るばかりです。

2年連続して現役生へのサポートができなかったため、OBの

有志で新しい卓球台を1台寄贈させて頂きました。丁度10年ほど前に61期の先輩方が卒業50周年を記念して寄贈して以来です。有望な現役生が多いらしいので、他のクラブに負けないような好成績に繋げていただければと思います。



バレーボール部
眞崎 将太
(104期)

令和3年12月に高崎アリーナで開催されました天皇杯・皇后杯ファイナルラウンドで、高崎高校バレーボール部のOBである堺プレイヤーズの樋口裕希君(114期)、東レアローズ山口拓海君(115期)の日本トップレベルのプレーを直接観ることができ、OBがそのような場で活躍をしていることに感動を感じました。コロナ禍での大会でしたので、今回は大々的な応援は控えましたが、またこのような機会があればOB諸兄と共に観戦したいと思います。

新年の恒例行事であるOB×現役の練習会及びOB新年会は、感染対策をした上で昼間の練習会のみ令和4年1月3日に行われました。今年は20代のOB参加者が多く、現役生や先輩後輩の近況報告を聞くことができましたが、来年こそは新年会が開催され、より多くの方と交流を持てる事を願っております。

OBチームである翠巒クラブの活動は、令和3年度もコロナ禍で全国や県の大会がほとんど中止になりましたが、高崎市立群馬南中学校で毎週火曜日に練習を続けています。どなたでも参加可能ですので、バレーボールをやりたい方は是非お越しください。

今後の現役生の支援につきましては、バレーボール部顧問である柴山先生(103期)と連携を取りながら、現状に合った最善の支援を行えるように尽力して参ります。



ソフトテニス部
小林 優介
(103期)

令和3年8月7日(土)、35度を超える猛暑の中、高崎高校テニスコートにてOB会、総会が行われました。毎年恒例のOB、現役との親善試合を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症対策として、今回は現役との交流試合は行わず、OBのみでの交流試合を行いました。若手OBを中心に汗をかき、猛暑もあったので、無理

GUNKYO
株式会社 群協製作所
代表取締役社長 遠山 昇(サッカー部 79期)
専務取締役 遠山 雄彦(バレー部 84期)
<http://gunkyo.co.jp>

めまい・補聴器・アレルギー・各種日帰り手術
清水耳鼻咽喉科
院長 清水 祐二(サッカー部73期)
●診察時間 午前 9:00~12:30/午後 2:30~6:30
●休診日 曜日祝日・土曜日午後
高崎市京町321-4 ☎ 027-353-4533
<http://www.shmz-ent.com/>

社会福祉法人 愛善会
はなだか かみたき
鼻高こども園 上滝こども園
國峯 善次郎(50期) 國峯 賢一(74期) 國峯 義仁(106期)
(サッカー部) (サッカー部) (和太鼓部)

なく試合をして解散となりました。今後とも、多くのOBの参加をお待ちしております。今後とも現役へのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年2月2日(水)、高崎高校で顧問をされていた浦野克彦先輩(78期)が逝去されました。(享年61)ここに謹んでお悔やみ申しあげ、お知らせいたします。

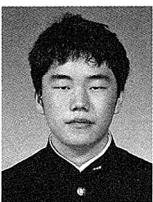
浦野先生には顧問として、私も三年間お世話になりました。迷惑ばかりかけた思い出が多いですが、いつでも温かく現役生に関わってくれたことを、昨日の様に思い出します。高崎高校でのご指導はもちろんのこと、群馬県の国体チーム、少年男子の監督としてもご尽力され、群馬県高体連ソフトテニス部の委員長も歴任されました。担任をされた8組では、卒業後も毎年新年会をし

ていたと聞いています。ソフトテニス部以外でも、誰からも慕われる先生でした。現役時代、護国神社での初詣、福沢諭吉を財布から取り出し、「これで、団体でインターハイに行けたら安いしよ。」と笑顔で言われたこと、高校生の我々には充分過ぎるプレッシャーでした。浦野先生と行った北海道(ハイスクールジャパンカップ)、長崎(インターハイ団体)は忘れません。浦野先生のご冥福を心よりお祈りしております。

令和4年4月、上並楓庭球場の16面人工芝への改修工事が終わり、人工芝でのナイターができるようになりました。高高ソフトテニス部OBの参加も多くあり、高崎クラブとして活動しています。平日の夜の活動がメインですが、ぜひ、久しぶりにソフトテニスをしませんか?ご連絡お待ちしています。

《高崎高校運動部の活動報告》

先輩がんばってます



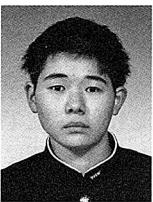
空手道部

渡辺 悠太

我々空手道部は現在3年生3名、2年生2名の計5名で活動しています。顧問の岡田先生に活動を支えていただきながら、日々の練習に取り組んでいます。

ところで、お気づきだと思いますが、今回新入部員がいませんでした。これは大事件です。伝統のある高高空手道部の廃部を防ぐべく、経験者、未経験者に関わらず中途採用を行っておりますので、いつでもお待ちしております。

また、昨年度よりも、感染対策を十分に行った上で、多くの大会や研修会が開催されます。このような機会を与えてくださった方々に感謝しながら、全力を尽くしますので応援よろしくお願いします。



バレーボール部

小暮 海知

我々バレーボール部は、顧問の柴山先生、副顧問の鈴木先生のご指導のもと3年生7名、2年生6名、1年生12名の計25名で活動しています。

昨年度は総体・インターハイ予選とともに準優勝、春高予選ではベスト4とあと一歩及ばず優勝することは出来ませんでした。この悔しさをバネに、「今年こそは絶対に予選で優勝して、全国大会へ出場してやる」という強い意志と熱量を部員一人ひとりが持つて、日々の練習や練習試合に励んでいます。

最後になりますが、OBの方々から受け継いだ伝統を大切にしながら、支えてくださる全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、良い結果が報告できるようこれからも精進していきます。今後ともご声援よろしくお願いします。

株式会社 シビル設計

CIVIL Design office Co., Ltd

代表取締役 根岸博昭(卓球部67期)

高崎市石原町1753-33 TEL027-324-1456



株式会社

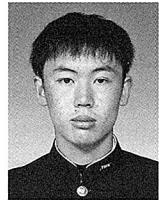
システムハウス

代表取締役 堤 康高(卓球部71期)

群馬県高崎市栄町15-9 きむらビルⅡ 4-B
TEL 027-327-8451 FAX 027-327-8480
URL <http://www.sysjh.jp/>

ソフトテニス部

橋本 将悟



ソフトテニス部

ソフトテニス部は顧問の菊地先生、副顧問の小林先生のご指導の下、3年9人、2年9人、1年10人の計28人で活動しています。

目標は、競技に真剣に取り組み、高いレベルでの文武両道を実践することです。関東・全国大会出場を目指して日々練習に励んでいます。

群馬県は他県に比べ競技レベルが高く、勝ち上がっていきことは厳しいですが、全国レベルの強豪校が県内にいることは逆にありがたいことでもあります。練習から闘志を燃やす起爆剤となっています。少ない練習時間を使い、高高生らしい頭を使ったプレイでライバルに立ち向かいたいと思います。

最後に、顧問の先生方や保護者の方々、OBの方々の支えに感謝し、今一度兜の緒を締めて、これから大会に全力で取り組んでいきたいと思いますので、ご声援をよろしくお願いします。

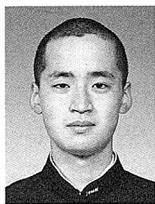
応援部

江坂 真乙

第七十代応援部主将を務めて居ります江坂真乙で御座います。四月の部結成にて大変喜ばしいことに、吾々応援部に新たに三名もの一年生が参入致しました。この事態は近年で全く以下の奇跡です。元来入部生徒が少数である応援部に於ける空白の一代は部の存続にまで影響致します故、三人の入部は部員に至る安堵と喜びをもたらしました。先代の受け売りでは御座いますが、『伝統』というものは継承のみならずその新しい形を創り上げていくことで生き続けることができます。続く第七十一代目では、新参三名と共に高崎高校の伝統の新たな形を模索して参ります。応援部が時代錯誤だと称されるこの令和の時代において、吾々は何故古き伝統を重んじ後世に残そうとするのか。応援の真理たるその答えは、吾々の今後の応援で示す所存です。我には紅き心あり。押忍。

**文武両道・3F精神全開!
がんばれ、卓球部**

卓球部OB会一同

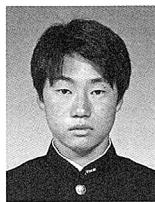


バスケットボール部

村田 淳希

現在バスケットボール部は関東大会、インターハイ出場を目標に部員35人で活動しています。バスケットボール部のスローガンは「戮力協心」で、意味は「心を一つにして一致協力すること」です。この合言葉のもと、学年に関係なく、全員が主体的に行動できるチームを目指しています。

今年は、学年を問わずそれぞれの選手が持ち味を随所で発揮する、見ていて楽しいチームになっています。この強みを生かして、まさに「総力戦」で戦っていきたいと思います。不自由なくバスケットボールを練習できる環境、支えてくださっている保護者やOBの皆様、熱心に指導してくださる先生方への感謝を忘れず、目標達成のために日々精進してまいりますので、引き続き応援よろしくお願いします。



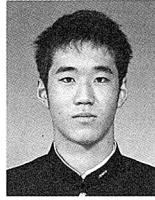
サッカー部

松岡 俊祐

私たちサッカー部は、顧問の吉田先生、副顧問の徳光先生、渡辺先生のご指導の下、1年生21名、2年生18名、3年生22名で活動しています。

新型コロナウイルスの影響で、今年の1月に開催された新人戦は中止という形で幕を閉じ、日々の練習が制限され、思うような活動ができていません。そんな中、ベスト8の壁を破り、さらなる高みを目指すために、部員全員で切磋琢磨しながら、日々成長しています。特に、今年のチームの特徴の一つである身長の高さを活かすべくセットプレーに力を入れています。

最後に、私達を支えてくださる先生方、保護者の皆様、OBの方々への感謝の気持ちを忘れずに、高校総体、インターハイに向けて励んでいきますので、応援の程よろしくお願いします。



水泳部

高尾 晴空

水泳部は山田先生、渡辺先生のご指導のもと、3年生4名、2年生4名、1年生2名の10名で活動しています。活動は各々のスイミングスクールや学校のプールと、それぞれですが全員が記録の向上を目指し練習に励んでいます。

昨年度は、上位大会出場者が1名も出ないという事態になりました。そのため今年度は、個人での関東大会出場はもちろん、リレーでの出場も目標としています。目標達成に向けて各自が直面している課題の克服に取り組み、部員一同、夏の大会で結果を出せるように今後も努力を重ねていきます。

先の見えない中、我々が活動できているのは学校を始めOBの方々を含む多くの方々の支援があってのことです。そのことを忘れず、水泳部のさらなる成長に貢献していきたいと思います。今後とも応援宜しくお願いします。

カーエレクトロニクス グッズ&サービス
群馬電装株式会社
本部・サービス部：高崎市江木町117
TEL.027-323-3622 FAX.027-327-6627
<http://www.gunmadenso.co.jp/>
代表取締役社長 川口 昌啓（剣道部74期）

群馬トヨペット株式会社
前橋市石倉町2-6-5
TEL 027-251-5111(代) FAX 027-252-1251
代表取締役社長 大山 駿作（剣道部71期）

金井勉社会保険労務士オフィス
社会保険労務士 金井 勉
(剣道部 66期)
〒216-0031川崎市宮前区神木本町2-9-1
TEL.044-948-6591
E-mail kanae7@world.ocn.ne.jp



硬式野球部

村松 健心

私たち硬式野球部は、高島先生、井田先生、飯野先生、大隅先生のご指導のもと、計48名が日々練習に励んでいます。今年度から新しく高島先生がご指導してくださることとなり、新体制となった春の大会では、ベスト8まで駒を進め、夏の大会のシードを獲得することができました。

コロナウイルスの影響で思うように練習ができない中ではあります、今年のチームのテーマである心理戦に重点を置いた「サイコロジカルベースボール」を常に意識し、必ず甲子園への切符を掴み取ります！

最後に、私達は沢山の方々の支えによって自分たちの大好きな野球ができるることに感謝し、精一杯頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。



剣道部

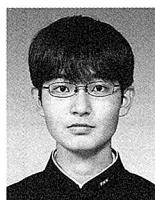
大澤 順斗

私たち剣道部は、3年生5名、2年生6名に新たに入部した1年生3名を加えた計14名で、顧問の木村先生、副顧問の田中先生、兵藤先生のご指導の下で日々稽古に励んでいます。

昨年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響によりマスクを付けながらの稽古を義務付けられるなど制限がある中での部活動でしたが、少しずつ規制が緩和され練習試合などができるようになり、徐々に普通の生活を取り戻されているように感じました。

目標は団体戦でのシード権獲得（ベスト8入賞）です。目標を達成できるように日々の稽古に励んでいきたいと思います。

指導していただいている先生方やOBの先輩方、いつも支えてもらっている家族に感謝しながら精進していきますので応援宜しくお願いします。



卓球部

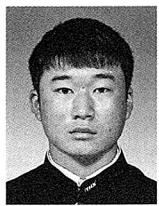
間庭 拓哉

卓球部は横田先生、長谷川先生のご指導の下、3年4名、2年8名、1年10名で活動しています。

昨年は卓球部の長年の目標であった団体県ベスト8を達成することができましたが、ここで満足せず、高校総体ではベスト4に入る 것을目標に日々練習に励んでいます。

コロナウイルスの影響で思うように練習できないこともあります、一人ひとりが目標を持ち、卓球を楽しむことでモチベーションを保っていました。自分達の試合動画を見返し、見つけた課題点を克服するための練習を行い、プレーに磨きをかけています。

最後に、このご時世で、当たり前のように練習ができる、大会に参加できるのは、身近な方々の支えがあったからだと思います。たくさんの方々への感謝を忘れずに、全力で取り組んでいきますので、これからも応援よろしくお願いします。



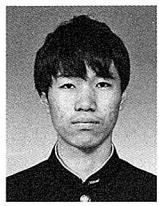
軟式野球部

剣持 冠多

私たち軟式野球部は、顧問の田島先生、副顧問の大久保先生、今井先生のご指導の下、3年生4名、2年生11名、1年生9名の計24名で活動しています。

秋季群馬県大会では重要な場面でのミスが目立ち、悔しい負け方をしました。この悔しさを晴らすため、日々の練習を大切にし、春季大会では関東大会出場、夏季大会では全国大会出場を目指しています。一人ひとりがチームを引っ張っていくという意識を持ち、チームワークを大切にして頑張っていこうと思います。

最後になりますが、私たちを支えてくださっている先生方、そして保護者の方々への感謝を忘れずに、今後の部活動に全力で取り組んでいきますので、これからも応援よろしくお願ひします。



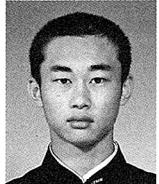
山岳部

古瀬 拓真

私たち山岳部は、顧問の井上先生、副顧問の國富先生、小林先生の指導の下、3年生11名、2年生8名、1年生10名の計29名で活動しています。

新型コロナウイルス感染防止対策として「移動」が特に制限される中で、山行や合宿、大会の中止など、昨年度に続き山岳部の活動は大きな制限を受けました。しかし、困難の中であっても、部員が自主的に集まって座学に励むなど、「今できること」に目を向け日々取り組んできました。現在は総体入賞を目標に部員一丸となって練習に励んでいます。

私たちを支えてくれているOB会の方々をはじめとする周囲の方々への感謝の心と、自然を愛する心を忘れずにこれからも精進していきたいと思います。応援よろしくお願ひします。



柔道部

増田 恭也

私たち柔道部は顧問の川田先生、岡田先生、監督の田中先生のご指導の下、日々練習に励んでいます。

高柔道部の目標は、高高生として学業に励みながらも部活動では団体県優勝を目指して真剣に取り組み、文武両道を実践することです。この目標を達成するために、毎日の練習メニューは基本的に生徒が考えます。試合の様々なシチュエーションを想像して対策を考えるだけでなく、各々が違う課題を持っているので意見がまとまらないこともあります、その分思考力が身につき、深いコミュニケーションが取れていると思います。

昨年に引き続き練習を行えない期間が続いたり、無観客試合ですが前向きに考えるよう努めています。最後に、先生方や保護者の方々、OBの方々への感謝を忘れず精進しようと思います。応援よろしくお願ひします。



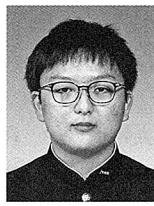
ラグビー部

佐藤 瑠斗

私達ラグビー部は、皿山先生、齊藤先生、山田先生のご指導のもと、3年生12人、2年生9人、1年生10人の計31人で、昨年度は叶わなかった私立打倒、全国大会出場を目標に活動しています。

部員の中には高校からラグビーを始めた生徒が多くいますが、その分高い向上心を持ち、練習の質を追求し、選手間でたくさんのコミュニケーションを取るよう努めています。目標達成に向けて、より結束を固め、一人ひとりがひたむきに努力できるチーム作りをしていきます。

これからも、伝統ある高崎高校ラグビー部の一員たる自覚と誇りを持ち、先生方やOBの皆様をはじめとする、支えてくださるたくさんの方々への感謝を忘れず、日々の活動に精一杯取り組んでいきますので、今後ともご声援の程よろしくお願ひします。



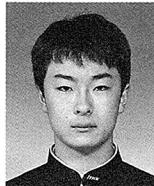
弓道部

大橋 恵斗

私達弓道部は、顧問の金谷先生、副顧問の森戸先生、コーチの東宮先生のご指導の下、日々練習に取り組んでいます。

昨年度は思うように部活動が行えませんでしたが、自粛期間後は練習を積み重ね、現在は県総体とインターハイに向けて、部員一同、射技向上に努めています。やりきれない気持ちのまま引退していった先輩方の思いも背負って、更に意識を高く持って練習に励み、今まで身につけてきたすべてを大会で出し切り、関東大会出場の目標が達成できるように頑張ります。

最後になりますが、自由に部活ができる事、支えてくれる方がいることに感謝し、今後の練習、大会に力を尽くしていきますので、応援よろしくお願ひします。



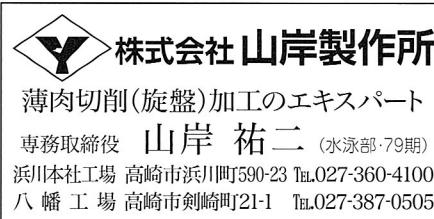
バドミントン部

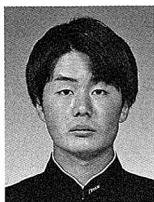
高橋 直人

私達は現在、レベルの高い学校相手であっても1点でも多くもぎ取れるように、初心者スタートではありますが、飯塚先生と鈴木先生にご支援頂きながら部員33名で練習に励んでいます。

バドミントンという競技は日本人選手のめざましい活躍ゆえ、人気があり高まってきています。そのため、新入生の本部活への人気も非常に高く、わずか2面という狭いコートの中で普段の練習を回すのには困難を伴っています。加えて、2022年3月の地震で崩壊した第一体育館の壁の改修工事のためにさらに練習が制限されてしまう状況にあります。そのような中であるため、部員が相互に意見を出し合い、本やネットなどから情報を取り入れてメニューを工夫しています。

定期戦や総体で良い結果を出せるようこれからも努力していくので応援よろしくお願ひします。





テニス部

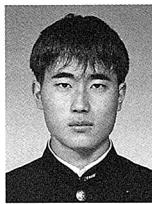
私は、顧問の高橋先生、中川先生のご指導のもと3年20名、2年13名、1年10名の43名で活動しています。日々の練習は、学校のコートや並木テニスコートを使用し、個人戦では本戦出場、団体戦では強豪私立打破を目指し努力しています。

高校総体個人戦では、シングルス5名、ダブルス3ペアが本戦出場することができ、シングルスの2名はベスト32入りを果たしました。他の部員も力をつけており、予選決勝で善戦むなしとあと一歩のところで敗退した者も多くいました。

本校は、高校からテニスを始めた部員がほとんどなので、他校のクラブに通っている人とのハンデを克服できるよう、高生の武器である頭を使ったプレーを磨き上げていきます。

最後に、日頃から支えて下さる先生方やOBの方々への感謝を忘れず、これからも部活動に取り組んでいきますので、応援よろしくお願いします。

小山 凜之介



陸上競技部

山口 横

陸上部は顧問の稻垣先生のご指導の下、日々練習を重ねています。部活動が思うようにできない時期もありましたが、昨年度は、全国高校総体100m第2位という成績を残すことができました。

今年度の高校総体では、一人でも多くの選手が関東・全国大会へ出場し、入賞することを目標にしています。高陸上部は、選手主体でメニューを組み、目標達成のための道筋を試行錯誤しながら練習を行っています。短時間でいかに効率良く実力を上げることができるかが、結果に直結する大事な要素になります。全員が高い意識を持ち、文武両道を実践しながらも強豪校に勝つことも、大きな目標の一つです。

最後になりますが、私たちを日々支援してくださっている先生方、OBの方々への感謝を忘れず、日々精進していきます。応援よろしくお願いします。

令和3年度運動部活動状況

硬式野球部

全国高等学校野球選手権群馬大会
1回戦 15-4 高 東

2回戦 2-12 健大高

秋季西毛リーグ

12-2 藤中央

12-1 高 東

15-0 4校連合チーム

3-10 高 商

秋季関東地区高等学校野球大会群馬県予選

1回戦 5-12 市立太田

春季西毛リーグ 中止

春季関東地区高等学校野球大会群馬県予選

1回戦 10-7 桐 生

2回戦 12-2 県 央

3回戦 11-3 伊 工

準々決 3-5 桐 一

ベスト 8

バレーボール部

全国高等学校総合体育大会バレーボール競技県予選会

3回戦 2-0 館 林

準々決 2-1 伊勢崎

準決勝 2-0 前 商

決 勝 1-2 県 央

準優勝

群馬県高等学校バレーボール選手権大会兼

第74回全日本バレーボール高等学校選手権大会県予選会

3回戦 2-0 前 南

準々決 2-0 館 林

準決勝 1-2 桐 商

第3位

空手道部

インターハイ予選

個人組手 磯田 蓮 8位入賞

新人大会

個人組手 磯田 蓮 第2位

目標せ! 全国制覇

高崎高校 ソフトテニス部

高中庭球部応援歌より
あゝ東西の両洋に テニスの覇者をうたわれし
好漢清水を出したる 我等は高中健児なり
ソフトテニス部 OB会

個人組手 津金颯乙 第3位

水泳部

関東高校県予選

400mR 佐藤、昆野、高橋、高尾 7位

R3年度群馬県高校総体

200m個メ 昆野大河 7位

柔道部

《柔道競技》

全国高等学校柔道大会群馬県予選

個人 81kg級 オゾエメナ ソブル涼太 第3位

第76回国民体育大会関東ブロック大会

団体 第5位

(少年男子中堅 オゾエメナ ソブル涼太)

全国高等学校柔道選手権大会群馬県予選会

団体 第3位

個人 73kg級 増田恭也 第3位

群馬県高等学校学年別柔道大会

第2学年 73kg級 中井 匠 第3位

相撲競技

第99回全国高等学校相撲選手権大会県予選会

団体 準優勝

個人 100kg未満 茂木風音 第3位

80kg未満 港壮史郎 第2位

第15回関東高等学校選抜相撲大会

個人 軽量級 増田恭也 第5位

県高等学校相撲新人選手権大会

団体 準優勝

個人 軽量級 港壮史郎 第2位

〃 吉田智哉 第3位

重量級 茂木風音 第2位

個人総合の部 港壮史郎 第3位

ソフトテニス部

群馬県高等学校新人ソフトテニス大会

団体 第3位

個人 ダブルス 井田・河合ペア

準優勝

ゴーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップソフトテニス2022

群馬県代表選考会

個人 シングルス 河合優輝

第3位

ラグビー部

全国7人制大会予選

1回戦 62-0 安総合

2回戦 38-5 興 陽

準々決 12-40 桐 一 ベスト 8

群馬県選手権大会(全国大会県予選)

2回戦 108-0 合同B(桐生・清桜)

準々決 0-47 桐 一 ベスト 8

新人大会

1回戦 54-0 高 工

準々決 0-54 桐 一 ベスト 8

軟式野球部

第69回春季関東地区高等学校軟式野球大会

群馬県予選会

2回戦 5-1 育 英

準決勝 1-2 高 商

第3位

第66回全国高等学校軟式野球選手権

北関東大会 群馬県予選大会

2回戦 3-1 太 田

準決勝 7-0 前 橋

決 勝 4-1 高 商

優勝

第66回全国高等学校軟式野球選手権 北関東大会

準決勝 3-1 東洋大牛久(茨城)

決 勝 1-6 作新学院(栃木)

準優勝

第62回秋季関東地区高等学校軟式野球大会

群馬県予選

2回戦 5-6 桐 生

群馬県高野連軟式部優秀選手表彰

田村祐也

1級建築士事務所 群馬県知事第2146号

有限会社 田口総合設計

創業57年 群馬県知事(16)98号

有限会社 田口不動産

1級建築士 田口恵一

(74期 ソフトテニス部 OB)

〒370-0846

高崎市下和田町一丁目1番1号 TEL 027-322-2492

木村動物病院

高崎市吉井町池1369-1

TEL 027-387-2520

城南大橋どうぶつ病院

高崎市寺尾町2623-6

TEL 027-384-3000

72期・100期 ソフトテニス部 OB

剣道部

インターハイ予選
団体 1回戦 1-2 興陽
学年別大会(個人戦)
1年生 津久井 ベスト32
新人大会
団体 1回戦 2-0 館林
2回戦 0-4 農二

山岳部

第52回新人登山大会(十二ヶ岳)
男子縦走 団体 第6位

陸上競技部

関東大会
100m 井上直紀 第3位
走幅跳 山口 権 第7位
4×100mR 松本・桑原・山口・井上 第8位
国体予選
少年A男子 100m 井上直紀 第1位
全国高等学校総合体育大会
100m 井上直紀 決勝 第2位
県高校新人
三段跳 松本新大 優勝
800m 真下陽成 第2位
走幅跳 山口 権 第2位
4×400mR 島田・松本・山口・谷山 第5位
やり投 掛川 翼 第6位
110mH 萩原飛幸 第6位
関東高校選抜新人
三段跳 松本新大 第6位

サッカー部

全国高等学校総合体育大会サッカー競技
群馬県予選
2回戦 12-0 前西
3回戦 1-0 太田
4回戦 1-3 市前 ベスト16
第100回全国高等学校サッカー選手権大会群馬県大会
決勝トーナメント
1回戦 0-1 西邑楽
新人大会
1回戦 不戦勝 前東
2回戦 1-1 太田 ベスト16
(PK5-3)
3回戦からは新型コロナの関係で中止

卓球部

新人大会
団体 2回戦 3-0 市太田
3回戦 3-0 太工
4回戦 0-3 沼田 ベスト8
8リーグ
3-2 高工
2-3 桐生
3-1 伊商
(2勝1負) 6位

バドミントン部

インターハイ予選
1回戦 1-3 渋川
新人戦
1回戦 2-3 前東

バスケットボール部

インターハイ予選
1回戦 113-60 清明
2回戦 117-49 高経附
3回戦 93-78 勢農
準々決 73-112 育英 ベスト8
WC予選
2回戦 98-39 前南
3回戦 95-70 市太田
準々決 67-89 新島 ベスト8

テニス部

インターハイ予選
個人 シングルス 田内大介 ベスト32
シングルス 小山凜之介 ベスト64
ダブルス 小山・花見 ベスト16
団体 1回戦 0-3 高工 ベスト16
新人大会
個人 シングルス 花見耀 ベスト32
小山凜之介 ベスト32
押味宏幸 ベスト32
ダブルス 柴田・宮田 ベスト8
小山・花見 ベスト16
押味・生方 ベスト16
団体 1回戦 5-0 清桜
2回戦 3-2 前工
3回戦 0-3 商大附 ベスト8

弓道部

県選手権
団体 予選落ち
新人大会
団体 Aチーム 12射7中 予選落ち
東日本予選
団体 予選落ち
春季大会
団体 Aチーム 12射3中 予選落ち
Bチーム 12射2中 予選落ち

第57回高校総体(令和4年) 男子総合8位**バレーボール部**

3回戦 2-0 渋川
準々決 2-0 伊商
準決 0-2 桐商 第3位
(関東大会出場)

ソフトテニス部

個人 ダブルス 井田・河合ペア ベスト16
(関東大会出場)

団体 1回戦 3-0 新田暁

2回戦 2-1 高北

3回戦 1-2 沼田 ベスト8

バドミントン部

団体 1回戦 1-2 高工

サッカー部

1回戦 3-0 四ツ葉
2回戦 1-0 吉井
3回戦 0-3 桐一 ベスト16

バスケットボール部

1回戦 105-58 高工
2回戦 74-59 桐生
3回戦 67-46 勢農
準々決 58-108 育英 ベスト8

山岳部

第8位

空手道部

団体 1回戦 5-0 渋工
準々決 0-4 高工 ベスト8

剣道部

1回戦 1-2 高東

弓道部

団体 24射7中

テニス部

団体 2回戦 3-0 清桜
3回戦 2-0 伊商
4回戦 0-2 共愛 ベスト8

軟式野球部

1回戦 6-1 高工
2回戦 1-3 農二 ベスト8

卓球部

団体 順位決定リーグ
3-1 伊商
3-2 桐生
2-3 高工 第6位

ラグビー部

1回戦 79-0 育英
準々決 0-82 桐一 ベスト8

柔道部

《柔道競技》
団体 2回戦 4-0 渋川
3回戦 0-4 桐一
順位決定戦
1回戦 3-0 太工
2回戦 2-1 沼田
3回戦 1-1 勢農 第6位
(関東大会出場)

《相撲競技》

団体 0-5 樹徳 準優勝
(関東大会出場)

陸上競技部

走幅跳 山口 権 第3位
三段跳 松本新大 第4位
走高跳 萩原飛幸 第5位
やり投 掛川 翼 第5位
(上記種目で関東大会出場)
総合第6位



高崎高校 陸上競技部OB会 会長 甲斐 俊輔 (87期)

(「高崎高校陸上競技部OB会」Facebook 開設しました)

翠巒体育会役員名簿

(令和4.6.23)

役職	氏名	期	運動部名
会長	大田部 功	85	ラグビー
副会長	山岸 祐二	79	水泳
"	志田 登	82	柔道
"	清水 威	85	硬式野球
"	橋爪 洋介	85	卓球
"	仲澤 賢一	86	バスケットボール
"	滝野 修司	86	剣道
"	甲斐 俊輔	87	陸上競技
"	根岸 強	87	サッカー
"(会計編集委員)	小林 優介	103	ソフトテニス
"(編集委員)	吉井 章一	78	山岳
"(事務局)	北村 真行	85	テニス
"(事務局)	櫻井 健一	87	応援
"(事務局)	坂本 弘	87	バレーボール
"(事務局)	井野 周平	91	ラグビー
"(事務局)	横田 裕正	92	スキー・スケート
監査	波多野重雄	77	陸上競技
"	波瀬 憲昭	81	バレーボール
顧問	國峯善次郎	50	サッカー
"	岩田 武雄	53	バスケットボール
"	高橋 浩生	78	バレーボール
理事(情報部長)	堤 康高	71	卓球
"(会計)	清水 元	91	硬式野球
理事	原 到	78	バレーボール
"	高橋 孝史	97	"
"	塚越 英男	91	剣道

役職	氏名	期	運動部名
理事	萩原 克明	93	剣道
"	鳥居 吉二	73	柔道
"	石橋 修	90	陸上競技
"	足立 晋	96	"
"	中山 拓紀	102	"
"	相澤 悅郎	88	ラグビー
"	高橋 哲人	89	"
"	黒田 和宏	99	"
"	永尾 俊弘	70	水泳
"	斎藤 全賢	75	"
"	伊藤 祐司	75	"
"	須藤 聰	78	"
"	羽鳥 広平	104	卓球
"	高橋 秀仁	107	"
"	石田 和久	75	ソフトテニス
"	深堀 将平	111	"
"	新嶋 拓哉	111	"
"	富田 和弘	85	応援
"	佐藤 英樹	92	"
"	根岸 彰	103	"
"	武藤 靖秀	106	"
"	遠山 昇	79	サッカー
"	安藤 英彦	86	"
"	佐藤 雄一	97	"
"	高山 雄介	100	"
"	小林 均	77	硬式野球

役職	氏名	期	運動部名
理事	堀込 貴	84	"
"	赤澤 正喜	84	"
"	北嶋 聰二	87	バスケットボール
"	鈴木 徹也	88	"
"	小澤 朋克	99	"
"	児島健太郎	100	"
"	松本 基志	77	山岳
"	須川 光一	79	"
"	齋藤 英敏	83	テニス
"	長谷川 泰三	83	"
"	松本 潔志	85	"
"	神保 裕之	83	スキースケート
"	佐藤 雄一	86	"
"	沼野 藤雅	89	"
理事(編集委員)	芳賀 弘幸	81	ラグビー
"	茂原 賢三	89	陸上競技
"	伊藤俊一郎	92	柔道
"	武山 雄海	102	バレーボール
"	清水 健一	104	ソフトテニス
編集委員	提箸 宏	74	サッカー
"	新藤 洋一	81	水泳
"	藤井 正弘	81	応援
"	戸澤 健	92	硬式野球
"	寺澤 佑介	95	スキースケート
"	角岡 大悟	96	剣道
"	塚本 浩史	99	バスケットボール
事務局	高橋 秀仁	107	卓球
"	小澤 朋克	99	バスケットボール

学校側顧問

校教務事務運動部事務局	長頭長	小林智宏
"	田中幸雄	・徳江和彦
"	浅岡守	
"	小澤朋克	
"	小澤朋克	
硬式野球	高島嘉美夫	・大隅昭彦
ラグビー	皿山倫義	・齊藤幸男
サッカー	吉田卓弥	・徳光尚之
陸上競技	稻垣圭吾	・北爪紀枝
水泳	渡辺彰	・山田敏行
山岳	井上貴智	・國富充敏
応援	竹内聰	・織田大地
ソフトテニス	菊池将史	・小林淨
テニス	高橋建次	・中川浩之
スキー・スケート	一場尚子	・大隅直樹
バスケットボール	小澤朋克	・川田亮一
バレーボール	柴山俊広	・鈴木崇元
卓球	横田謙人	・長谷川忠史
剣道	木村拓哉	・田中みゆき
柔道	川田智広	・岡田直之
弓道	金谷学	・森戸麻子
空手道	岡田一輝	・竹内聰
軟式野球	田島悦男	・大久保泰希
バドミントン	飯塚勇一	・鈴木幸英



OB会長名簿

OB会名	会長氏名	期
柔道部OB会	鳥居吉二	73
ソフトテニス部OB会	田口恵一	74
サッカーチームOB会	清野哲雄	74
硬式野球部OB会	清水正郎	75
山岳部OB会	松本基志	77
水泳部OB会	島崎秀明	77
剣道部OB会	小池政一	77
バレーボール部OB会	原到	78
ラグビー部OB会	今村孝之	80
テニス部OB会	林正和	81
スキー・スケート部OB会	神保裕之	83
応援部OB会	富田和弘	85
卓球部OB会	橋爪洋介	85
バスケットボール部OB会	仲澤賢一	86
陸上競技部OB会	甲斐俊輔	87

〔塚本・バスケット部・99期〕

関係各位の協力により、第41号の会報を発行することができました。寄稿いただきました先輩諸兄、並びに編集委員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は社会に不安と困難をもたらし、各部のOB会の活動にも影響を与えただけでなく、現役生の皆様が当初想い描いていた高校生活とはかけ離れた高校生活であるかもしれません。

困難な状況を表す言葉に「大変」があります。「大変」とは否定的な意味だけでなく「大きく変わる」チャンスでもあります。

文武両道に邁進する高高生にはこのチャンスを活かす力があり、翠巒体育会がそのために現役生を支える会であることを再認識する機会となりました。改めて会の運営に尽力いただいている関係各位に御礼申し上げます。